

# JAPAN ICOMOS / INFORMATION

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES

JAPANESE NATIONAL COMMITTEE 日本イコモス国内委員会

6 期 — 6 号



2005.06.24

## CONTENTS ♣

はじめに／前野まさる 01

From the President / Masaru MAENO

2005 年次第1回拡大理事会報告 (3/12) / 赤坂 信 02

Reports on the 1st Meeting of the Executive Board, 2005  
Makoto AKASAKA

2005 年次第2回拡大理事会報告 (5/14) / 山田幸正 05

Reports on the 2nd Meeting of the Executive Board, 2005  
Yukimasa YAMADA

バム遺跡修復保全技術に関する国際会議報告 / 渡辺邦夫 07

International Technical Meeting on the Rehabilitation of  
the Cultural Heritage of Bam and its Cultural Landscape in Rome  
Kunio WATANABE

日本造園学会 80 周年記念国際シンポジウム / 赤坂 信 08

International Symposium in commemoration of 80th anniversary  
of Japan Institute of Landscape Architecture  
Makoto AKASAKA

事務局日誌 10

Diary



イラスト (全て) / 前野まさる

はじめに  
前野まさる



昨年10月のICOMOS-CIAVの後片づけの報告書に忙殺されていました。開催から半年経った4月始め、ユネスコアジア文化センターと文化財保護・芸術研究助成財団への報告がやっと終わりました。思いがけなく出てきたCIAVの赤字決算も共催各位の皆さんのご好意で、無事収めることができました。同時期に「南子の町並みで世界と語る」と題し、ICOMOS-CIAV会議の記録が日本イコモス国内委員会監修により「愛媛県町並み博2004実行委員会」から出版されました。

アジア太平洋地域会議が5月30日から6月1日まで「アジアの町並みの観光運営」をテーマにソウルで開催されました。私は昨年のCIAVの会議の経験から住民生活と観光の在り方を話したのですが、アジア諸国の観光問題の関心は、むしろ古代遺跡と観光や祭りのもたらす観光効果にあったようです。今年の9月6～7日観光国際会議が韓国で開催されます。全ての歴史的遺産の保存活用問題は、最終的には観光問題にたどり着きます。嬉しいような、厄介なようなことですが、大切なことなので、日本イコモスでもしっかり対応する必要があると思います。

# 2005 年次第 1 回拡大理事会報告

2005 年次第 1 回理事会が去る 2005 年 3 月 12 日（土）午前 10 時から午後 1 時 30 分まで文化財保存計画協会会議室（東京・恵比寿）で開催された。出席者は、委員長：前野まさる、理事：赤坂 信・杉尾伸太郎・益田兼房・矢野和之、本部副会長：西村幸夫、国際専門委員：杉尾邦江の各氏で、報告事項および審議事項は以下の通りである。

## 報告事項

「2005 年次第 1 回理事会議事次第」に基づき、以下の報告事項が確認された。

### 1. 日本イコモス国内委員会 2004 年次総会

日本イコモス国内委員会 2004 年次総会は“JAPAN ICOMOS/INFORMATION 6 期 5 号”に掲載した通り。名誉会員と顧問に関する規約改正については、事前に通知する議題にもあげられていなかったことやパリ本部の承認も必要なことから、改めて検討することとした。以上、前野委員長から報告された。

### 2. 日本イコモス国内委員会会員数

会員総数は 2005 年 3 月 10 日現在で 246 名。前野委員長報告。

### 3. 諸会議報告

#### (1) 国連防災世界会議 Risk Preparedness

前回の 1994 年横浜会議では文化遺産分野はテーマとなっていなかったが、今回はユネスコ世界遺産センター、イクロム、文化庁が主催者となって「文化遺産の危機管理」の会議が益田兼房立命館大教授を実行委員長として開催され、その結果が国連防災世界会議分科会の「勧告」として 2005 年 1 月 19 日に採択された。並行して世界会議の関連行事として開催された「日本イコモス文化遺産防災アジア環太平洋地域専門家会議」では討議の結果「文化遺産防災・京都宣言 2005」とし

て 2005 年 1 月 16 日に採択された。以上、益田理事による報告。

#### (2) ICCT Cultural Tourism

宗田委員からの報告では、オーストラリアと連絡がとれなくなっているということであるが、西村 ICOMOS 副委員長より、現在活発に活動しているオーストラリアのグラハム・ブルックス氏と再度連絡をとってみる必要があるとの意見が出された。

#### (3) CIVVIH Historic Town and Village

本年 5 月 21 ～ 24 日にイスタンブールで開かれる会議に福川委員が出席予定。

#### (4) 歴史的庭園と文化的景観 Historic Gardens and Cultural Landscapes/ICOMOS-IFLA

国際委員会はベルギーのブリュッセルで 2005 年 2 月 11 ～ 12 日に開催された。主として会長および役員選挙が行なわれ、新会長にザンゲリ（イタリア）世界 7 地域ごとに副会長をおくことになり、アジア・オセアニア地域の副会長として杉尾伸太郎委員が任命された。以上、杉尾伸太郎委員からの報告。

#### (5) ICOMOS-CIAV Vanacular Architecture

「えひめ街並み博 2004」と連携する年次会議および国際シンポジウムで生じた赤字四十数万円については国交省や県をはじめとする関連諸団体からの支援により解消。事態が切迫している「瀬の浦」問題を解決するための対策を至急考える必要がある。以上、前野委員長からの報告。

#### (6) Underwater Cultural Heritage

インド海軍・考古学研究所共催の「インド洋と東アジアの海」をテーマとしたセミナー（2005 年 3 月 16 ～ 19 日、ニューデリーで開催）に招かれ、日本の水中考古学の話をする事になっている（ICOMOS との関係ではない）。以上、荒木委員からの報告。

#### (7) Legal Issues

国際委員会は 2005 年の 11 月にベルギーで開催の予定であるが、日時や詳細は不明。なお、2006 年は日本で開催する予定となっているが、日時詳細は未定。テーマとしては、無形文化財にするか文化的風景とするか、1954 年ハーグ条約かと思案中。開催場所、テーマ、資



金助成をどうするかが課題。以上、河野委員の報告。

**(8) 小委員会報告**

**第1小委員会 「憲章」委員会** 2005年度の活動予定について

検討内容：日本における木造建築の特質の解明—憲章への準備段階として、今まで木造建築がどのように理解されてきたのかを検討する。会合を3~4回開催予定。

以上、藤井主査からの報告。「木」の国際専門分科委員会（村上裕道委員ら）との情報交換も適宜必要ではないかとの意見が出された。

**第5小委員会 ブルガリア Plovdiv Project**

ユネスコ Venice Office の職務怠慢と権力主義によって、およそ1年間、予想外の停滞と苦闘を強いられたが、ようやく再発進できる見通しが立った。以上、石井委員からの報告を矢野事務局長が説明した。

**4. 日本コントラクトブリッジ連盟から寄付**

日本コントラクトブリッジ連盟から日本イコモスに対し10万円の寄附の申し出があった。杉尾伸太郎副委員長からの報告。

**5. 事務局のコンピュータ更新**

コンピュータが老朽化したため、更新する。本体108,400円、搬入設置料8,000円、税5,820円 合計122,220円。以上、事務局からの報告。

**審議事項**

**1. 入会者および退会者の承認**

入会者（個人）

氏名	所属	推薦者
津村泰範	文化財保存計画協会	矢野和之・前野まさる
辻 喜彦	アトリエ74建築都市計画研究所	西村幸夫・矢野和之
大澤雅章	まち公舎	西村幸夫・矢野和之
李 明善	東京大学大学院人文社会系研究科	藤井恵介・益田兼房
久保田尚	埼玉大学大学院理工学研究科助教授	益田兼房・矢野和之

以上、これまでに申請のあった上記新規個人会員5名の入会について、資料を閲覧し、かつ慎重に審議した結果、これを承認した。

退会者（個人）

氏名	所属	事由
荒樋久雄	上智大学アジア文化研究所共同研究員	2004年交通事故により死亡

荒樋久雄氏は上智大学アジア文化研究所でアンコールワットの保存修復に大きく貢献してただけに、これからが期待されていた。心からご冥福をお祈りします。

**協議事項**

(1) 会員問題

日本イコモスの活動の普及と会費収入の増加を目的に準会員の仕組みを考える必要があるという提案がなされた。パリ本部に承認の不要な、たとえば学生会員や日本イコモスの活動をサポートする維持会員（たとえば日本イコモス友の会など）の枠を設けたらいいのではないか。しかし、一方事務局の負担が増大するのではないかという問題も指摘された。

(2) ICOMOS 執行委員の推薦と名誉会員の推薦

ICOMOS 執行委員に岡田保良委員を推薦することが協議の結果、決定された。さらに伊藤延男委員をICOMOS の名誉委員としてパリ本部に推薦することになった。

(3) 鞆の浦問題に関する緊急アピール

CIAV2004で、オーストラリアのICOMOSメンバーによる鞆の浦アピールの提案がなされた。しかし広島県や福山市はいまだに建設計画の手を緩めず、鞆の浦の架橋問題をめぐる状況はますます厳しくなっている。そこで、日本イコモス国内委員会の理事会で、ここで改めて懸念表明をしてはどうかという提案がなされた。協議

の結果、緊急の臨時理事会を地元での研究会(シンポジウム)とともに鞆の浦で開催されることとなった。緊急アピールは、これまでの鞆の浦の歴史的価値や景観の良さを訴えるだけのものではなく、地元の架橋賛成派住民の気持ちにも届くような内容を備えるべきだという意見が出された。暫定の日時は2005年5月14日(土)。

#### (4) 世界遺産のモニタリングについて

現在、国内の世界遺産登録(文化遺産)は9件であるが、すでに様々な問題を抱えている。とくにバッファゾーンにおける景観問題、交通問題を解決する必要があるにもかかわらず、その目処が立っていない。今後景観法の運用を視野に入れながら課題を的確に整理していく必要がある。このため、海外から指摘される前に日本イコモスとして自主的にモニタリングを進めなければならないだろう。以上の意見をもとに協議し、交通問題に関する社会実験を実施している白川村をケースに始めることになった。2008年にモニタリングを出すことを目標にすれば、オーバーユース、交通問題のシンポジウムを2007年に開き、日本イコモス国内委員会による自主モニタリングは2006年のうちに済ませておくことになる。

#### (5) 文化遺産保存関連海外援助および海外協力事業の課題

国際文化遺産コンソーシアム(国際借款団)をつくろうという呼びかけは、呼びかけのみで終わっている。実働部隊をどう組織していくか。何が問題になっているのかをはっきりさせたい。産官学における人材のプールは果たして可能かを今後考えなければならない。

#### (6) 西安 ICOMOS 総会参加について

Call for Paper について和訳を会員に配信することや、事務局によるツアー企画(8万6千円程度)などについて話し合われた。

#### (7) ISC 委員について

●西村康委員はCIPA出席困難。本人は国際遺跡探査学

会に専念したいので、Voting Memberの交代を申し出ている。2名の候補をあげていたが、協議の結果、後日、本人と相談。

●RockartのAssociate Memberに関し考えたいと小川委員から報告。

●Underwater Cultural HeritageのAssociate Memberとして池田榮史氏を推薦し、日本イコモスの会員として林田憲三氏、石原渉氏を推薦し、研究会を強化したい。荒木委員から報告。

●防災ICORPからAssociate Memberとして大窪健之氏を推薦したいと益田委員から報告。

●Cultural RoutesのAssociate Memberとして大野渉氏を推薦したいと杉尾邦江委員から報告。

●「20世紀の建築」がISCに新たに認められたので、委員候補を検討したいと西村幸夫委員から報告。

#### (8) 後援名義使用承認について

緊急な後援依頼で内容的に妥当な件については、委員長と副委員長2名で相談して事務局で判断することとなった。

#### (9) その他

昨年度第3回理事会において後援名義の使用を承認した国際産業遺産保存委員会 TICCIH (The International Committee for the Conservation of the Industrial Heritage) の国際フォーラムが、本年7月6～11日まで名古屋で開催される。産業遺産に関心のある方は是非ご参加を。

#### (10) 次回理事会

次回理事会の開催日程と会場について(暫定)、2005年5月14(土) 広島県福山市鞆の浦

(記録: 赤坂 信)

# 2005 年次第 2 回理事会（拡大理事会）報告



2005 年度第 2 回理事会（拡大理事会）が去る 2005 年 5 月 14 日（土）午後 2 時から午後 4 時 45 分まで、文化財保存計画協会（渋谷区恵比寿）3 階会議室で開催された。出席者は、委員長：前野まさる、理事：赤坂 信・岡田保良・杉尾伸太郎・益田兼房・矢野和之・山田幸正、顧問：伊藤延男、本部副会長：西村幸夫、国際専門委員：杉尾邦江の各氏で、報告事項および審議事項は以下の通りである。

## 報告事項

冒頭、前野委員長より、本理事会を当初、鞆の浦で研究会と合わせて開催する予定であったが、研究会準備などの都合で会場を変更したことが報告された。

### 1. 2005 年度第 1 回拡大理事会報告

前回理事会の議事要録（記録：赤坂理事）を配付し、それに基づいて、前野委員長より、その概要が報告された。

### 2. ICOMOS CIAV 2004 年次会議での鞆の浦問題

昨年愛媛で開催された ICOMOS CIAV 2004 年次会議において、オーストラリアの委員から提出された鞆に関するレゾリューションが配付され、おおよその経緯と内容について、前野委員長から報告された。レゾリューションのなかで、“the World Endangered Heritage List” の邦訳が誤解を受けるのではないかとの指摘があった。（審議事項で再掲）

### 3. 第 5 小委員会報告

去る 5 月 7 日（土）第 5 小委員会ブルガリア・プロヴディフ旧市街保存事業協力班の会合がもたれた。石井主査による 2004 年 4 月 7 日から 2005 年 5 月 5 日までの交信記録が回覧され、矢野事務局長より以下のように報告された。

石井主査は去る 3 月 14 日から 23 日まで現地へ出張され、5 件の修復対象家屋の主任建築家を選任し、あわせて絵画と構造の修復家についても調整した。対象物件 5 件のうち 3 件については、緊急的な部分修理で、今年度中に工事が終了する見込みである。残り 2 件については、本格的修理で、2～3 年の期間を要するであろう。きたる 6 月 7 日にコントラクターの入札が行なわれる予定である。地域の整備工事を「文化無償」で実施できるよう申請する件で、現地ソフィアの日本大使館と交渉した。その件で外務省文化交流課とも 5 月 8 日に交渉する予定である。7 月末から 8 月初めにかけて、麓、前野、矢野の 3 名が現地を訪問する予定で、我が国の建造物・史跡・町並みの保存の現状について説明するとともに、修理現場を視察し、関係者と打合せする予定である。

### 4. 日本の世界遺産に関する自主モニタリング準備報告

西村本部副会長と矢野事務局長は、前回理事会（3/12）でも協議した世界遺産の自主モニタリングについて、日本ユネスコ協会連盟と協議を行なった。自主モニタリングの必要性を先方に説明するとともに、旅費等の経費支援を依頼した。本年は白川郷と五箇山の歴史的集落群をモニタリングの対象とし、その結果を報告書にまとめる予定である。以上の通り、矢野事務局長から報告された。

### 5. 図書への寄贈

日本ユネスコ協会連盟より「世界遺産年報」の寄贈を受けた。後日、会員全員に発送する予定である。以上の通り、矢野事務局長から報告された。

また、愛媛県および日本システムより ICOMOS-CIAV2004 の記録集「南予の町並みで世界と語る」290 冊が寄贈された。英文の冊子も準備中である。

以上の通り、前野委員長より報告された。

### 6. 日本ユネスコ協会連盟との連携

日本ユネスコ協会連盟理事長野口氏との協議のなかで、世界遺産に関連して、日本イコモス国内委員会と日

本ユネスコ協会連盟との協力関係を強化していくことで、基本的な合意がなされたことが、矢野事務局長より報告された。

## 7. 後援名義使用について

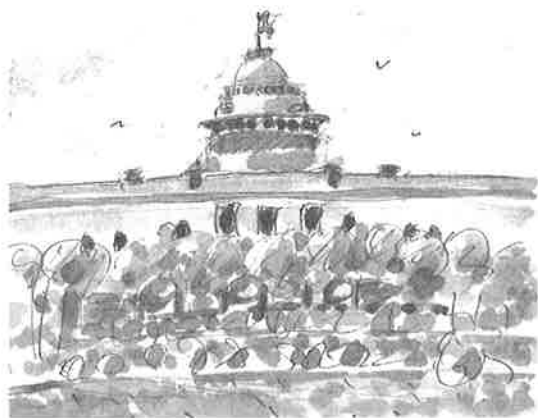
島根県教育庁文化財課より「鉱山遺跡の顕著な普遍的価値と保存管理に関する専門家国際会議」の後援について依頼があり、委員長、副委員長、事務局長で協議し、後援することを決定したことが、前野委員長より報告された。

## 8. 寄付金等の受領

●日本コントラクトブリッジ連盟からの10万円の寄付金が3月25日、入金された。

●立命館大学歴史都市防災研究センターより、国際会議「文化遺産と歴史都市を災害からどう守るか」の会議資料作成経費等として、30万円が3月31日に入金された。

以上の通り、矢野事務局長より報告された。



## 審議・協議事項

### 1. 入退会者の承認

#### 入会者（個人）

氏名	所属	推薦者
知野泰明	日本大学工学部土木工学科講師	矢野和之・佐々木政雄
伊東 孝	日本大学理工学部教授	前野まさる・矢野和之
山内奈美子	文化財保存計画協会	前野まさる・矢野和之
五十嵐ジャンヌ	早稲田大学オープン教育センター	前野まさる・矢野和之

以上、これまでに申請のあった上記新規個人会員4名の入会について、資料を閲覧し、かつ慎重に審議した結果、これを承認した。

#### 退会者（維持会員）

氏名	事由
大成建設株式会社	諸般の事情により

以上、1社の維持会員の退会を承認した。

### 2. 会費未納者問題について

会費未納者の現況について、矢野事務局長より以下のように報告された。

未納者：個人 本年／56人、2年／16人、3年／5人、4年／1人、12年／1人、計119万円

維持会員 本年／6社、30万円

議論の結果、2002年次第2回拡大理事会（2002年6月15日）における審議によって得た措置（原則、3年間会費未納は退会の意志とみなす。1年以上の滞納で会報発送停止、2年以上でパリ本部への登録を保留する）を尊重することとし、未納者に対して、再度期限を付けて督促することとなった。

### 3. 新小委員会設置について

益田理事および矢野事務局長より、文化遺産と都市景観、交通問題に関する課題とその解決方法を研究す



るための小委員会を設置したい旨の提案がなされた。提出された設立趣意書の概要は以下の通りである。

**委員会名：**「文化遺産と都市開発の課題検討」小委員会  
(略称：「都市開発問題小委員会」)

**設置目的：**日本では文化遺産と都市開発における様々な課題、特に交通問題、景観問題が各地で顕在化している。世界遺産である白川荻町の交通問題、平等院の景観問題、平城宮跡の高規格道路の問題、世界遺産以外にも鞆ノ浦の埋め立て問題など枚挙に暇がないほどである。昨年ケルンの大聖堂が危機リストに載って注目を浴びたが、日本においても同様なことが起きてもおかしくない状況にある。この状況を鑑み、これからの課題とその解決方法を検討するため、日本イコモス国内委員会に所属する文化財と都市計画、交通計画の専門家からなる小委員会を設置したい。

**活動内容：**世界遺産をはじめとする広いエリアをもつ文化遺産の都市計画、交通計画上の課題とそれを解決するための方策について、ケーススタディーを行ない、報告書として纏める。まず、白川村荻町の交通問題や福山市鞆の浦埋立架橋問題に取り組むことが考えられる。

主査：益田兼房

委員：西村幸夫／久保田 尚／佐々木雅雄／  
萩原 岳／矢野和之（敬称略・順不同）

多角的な議論の結果、同小委員会の設置を承認した。

#### 4. 研究会の企画について

鞆の浦の問題に限定するのではなく、「瀬戸内海の文化的・歴史的価値」というようなもっと広いテーマで研究会を6月中旬頃、瀬戸内地方で開催した旨の提案が、矢野事務局長からなされた。

鞆の浦での問題、朝鮮通信使など文化の道のことなど、多角的に議論した結果、「瀬戸内海の港湾都市の歴史的・文化的な価値について(仮)」というテーマで、アレックス・カー氏や伊東 孝氏などを招いて講演・研究会を開催する方向で検討していくこととした。会場としては、広島県尾道市をひとつの候補地とすることとなった。

(文責：山田幸正)

ローマで行なわれたバム遺跡修復・保全技術に関する国際会議報告

International Technical Meeting on the Rehabilitation of the Cultural Heritage of Bam and its Cultural Landscape in Rome

埼玉大学地圏科学研究センター 渡辺邦夫

5月10、11の両日、ローマでバム遺跡修復・保全技術に関する国際会議が開催された。会議の趣旨の1つは、「今後予定されているイタリア政府の復興支援で何を行うべきかを提案すること」であった。しかし会議の内容は、バム遺跡修復の現状紹介から世界の修復専門家による提案なども含めて広範な内容を持っており、事実上、今後のバム遺跡修復の方向を議論したものであった。むしろ、今後のバム遺跡修復の方向性が決まらなければ、いろんな国の、とりわけイタリアの支援の内容が決定できないという背景があったと思われる。このような重要な会議であったため、イタリア政府からは Buttiglione 文化遺産省大臣 (Minister of Cultural Heritage & Activities)、Sessa 外務省地中海・中東局長ら約40名、イランからは Beheshti 文化遺産観光省副大臣 (Deputy Minister of Cultural Heritage & Tourism) 及び同省の Vatandoust 氏、Mokhtari 氏、Talebian 氏ら約15名、ユネスコからは、Bouchenaki 次長、Bandarin 世界遺産センター長、谷口純子テヘラン事務所員ら5名が参加した。この他、Stanley-Price ICCROM 会長、Bumbaru ICOMOS 事務局長らが参加した。修復に関する国際専門家としては、イタリアから Croci ローマ大学教授ら、ペルーの Torrealva カトリカ大学教授、Simon ベルリン博物館主任研究員、Joffroy CRATerre 教授、Morgan 英国ペルシャ研究所研究員、私その他、トルコ、モロッコ、カザフスタンなどから研究員が出席し意見発表及び質疑応答を行なった。

会議の内容を大まかに報告すると、

●初日は挨拶及びバム遺跡修復の進行状況の説明。説明では特に崩壊したバム城砦遺跡の塔(No.1 及び No.32)の報告が詳しくなされた。

●2日目は、国際専門家の提言が行なわれ、質疑応答の後、Bouchenakiユネスコ次長が全体をまとめた。骨子は、イランの修復に対する努力を賞賛し、ユネスコとしては全面的に支援する。今後は一層、国際機関、専門家と議論して進めて欲しいとの事であった。最後にイタリア政府から、当面、No.1及びNo.32の塔の修復を支援することが述べられた。

このような今後のバム遺跡の修復・保存方向を討議する重要な会議であったにも関わらず、また、日本は無償資金・無償機材支援を行なっているにも関わらず、この会議の情報は事前にあまり日本に伝わって来なかった。この理由として下記の2点が考えられる。

●もともと、イタリアによる支援の内容を検討する会議としての性格があった。

●会議の性格、内容が会議の直前に大きく変化した。このことについて述べると、私が正式にこの会議の開催予定を知ったのは、昨年12月にイランより「バム修復に対して専門家としての意見」を求められてからであり、この要請に対して私は、国内の変形解析、建築材料の長期変化解析、年代測定などの研究者を組織し、組織としての意見を返した。しばらく何の連絡も無かったが今年4月になり、この会議への出席をユネスコから打診され、出席の返事をした所、5月になり、急遽、発表論文概要の提出を求められ、同時にユネスコが出席費用をカバーとの連絡があった。つまり、会議の直前になって、会議の性格がイタリアによる支援に関する討議から、ユネスコ主体の、より国際的なものになったと考えられる。

私の報告の内容は下記であった。

「バム遺跡のような遺跡では、たとえ崩壊していない部分であっても、多くのクラックを内在しており、多くのブロックにより成っていると考えられる。このような遺跡の変形ではブロックの動きを解析する事が大事であり、DDA（不連続変形解析法）が適している。この解析を通じて、グラウトやボルトなどによる補強効果が定量的に評価できる」。

この発表を、埼玉大学、長田助教授の行なったモデル的な変形解析結果を示して紹介し、イラン側に共同研

究の提案を行なった。また発表に対して、Crocchi教授やアドベ建築の耐震性研究の第一人者であるTorrealva教授からサポートする意見が述べられ、「ペルーの遺跡にも適用したい」などの意向が述べられた。

全体の印象として、このような国際会議の目的や内容は時間と共に変化していくようであり、その流れを把握してゆく事の重要性を強く感じた。日本は極東の地にあるとは言え、ユネスコ本部やイランの活動を注意深く見守りつつ、人的ネットワークを構築して情報を得てゆく努力が必要である事を切に感じた。遅ればせながら、まずは国際専門家間のネットワークを整備し、その上で日本のできる効果的な技術的貢献について具体的に模索していきたい。

日本造園学会 80 周年記念国際シンポジウム  
「持続可能なランドスケープの保全と再生」から

千葉大学園芸学部 赤坂 信

景観法が昨年施行され、景観、ランドスケープ、風景についての関心が高まり、世間一般の耳目を集めるようになってきている。文化的景観の保護は昨年文化財保護法改正で新たな課題として登場した。日本造園学会は、庭園や都市緑地としての公園のスケールから国立公園など自然公園レベルにわたる緑地・オープンスペースを研究対象としてきたが、景観問題に関しても長年その対象としてきた。創立1925年の同学会は今年で80周年を迎え、5月に開催された全国大会では、景観法や文化的景観に関するワークショップや研究会が開かれた。とくに80周年を記念して、国際シンポジウムが2005年5月13日、東大農学部弥生講堂「一条ホール」で開催された。ここではこの国際シンポジウム「持続可能なランドスケープの保全と再生」について報告する。



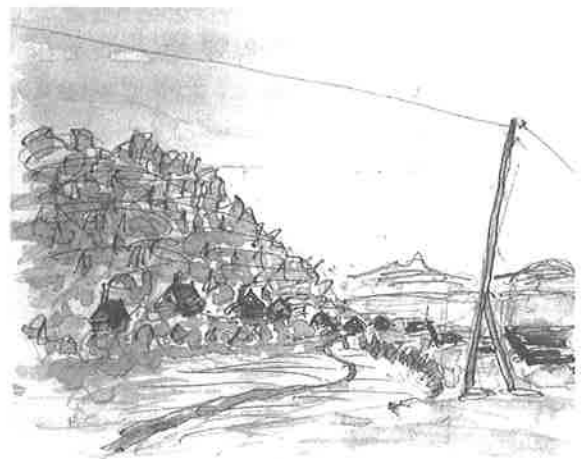


シンポジウムの論点は、自然環境と人間の営みの表象であるランドスケープの保全と創造はグローバルとローカルを結んだ持続可能な都市・地域づくりの中核をなす行為として、国内外の注目を集めているが、果たしていかに実現するか、あるいはこれまでどのように実現してきたか、である。ランドスケープの保全と創造(再生)のための方策はその発想や仕組みにおいて、土地の固有性は無論あるけれども、それをこえた共通性をもっているはずである。日本という風土におけるランドスケープの保全と再生という課題を考える上で、ヨーロッパや北米などの世界各地で起こっている動向を把握し、相対化することで日本の方策の特殊性と普遍性を探ろうというものである。海外からのスピーカーとして、アン・スパーン(マサチューセッツ工科大学)、ユルゲン・バウミュラー(シュツットガルト市環境局)、ロレト・コロombo(ナポリ大学)、オギュスタン・ベルク(日文研、EHESS フランス)の各氏。講演の論題はそれぞれ「言語としてのランドスケープ」「社会的関心事としての都市気候を考慮したシュツットガルトの都市計画」「文化的ランドスケープの保全—南イタリアの事例にみる一般性と特異性」「風土としてのランドスケープ—問題提起として」である。講演後は日本側のスピーカーやパネリストを交えた総合討論が行なわれた。持続可能、サステイナブルというならば次世代へと継承されるランドスケープをどのように考えるべきかについて語らなければならない。継承という意味では、アン・スパーンは具体例をあげながら興味深い論点を示していた。

その講演「言語としてのランドスケープ」で、ことばを読み解くようにランドスケープも読み解くことの重要性を彼女は強調する。ランドスケープを読み解くことができれば、これから起こりそうなことも予測できるというのである。目の前に展開するランドスケープの現在に至る歴史を踏まえて、将来を予測、構想することができるということか。その理由に、文字に無知無学であることではなく、ランドスケープに無知無学であることが、破壊を招き崩壊に至らしめてきたことをあげる。ランドスケープの言語の有用性を、フィラデル

フィアの低湿地にある町ミルククリークのプロジェクトで例証しつつ、さらにランドスケープの教養学を提言する。次世代へのランドスケープ・リテラシーの育成という課題には、こどもに対する教育の問題は欠かせない。このプロジェクトでは10歳から13歳のこどもたちに、理解を助ける多様なプログラムを用意し、自ら考えさせることによって、まず自分たちの住んでいる町の成り立ちを知ることから始める。そのことによって自分たちの町のランドスケープを語る自信を持つにいたるプロセスが紹介された。そしてこのプロジェクトが肝心なところで頓挫したことが告白される。その原因に行政の一部がランドスケープに対して無理解(無知無学)であったことをあげている。欠けているのは、われわれ現役の大人(どの世代かはともかく)の想像力、構想力だとズバリ指摘されたような気がする。そしてアン・スパーンはこう結ぶ。

Imagine if each environmental change were approached with the care and frame of mind of the poet who considers what is there and seeks both to respond and to open up a new world. つまり、詩人の心を忘れてはいけな



*Costobianca 街*

# 日誌 事務局

(2005年1月24日～2005年5月30日)



## 2005年

- 1/26 会員に2005年次年会費請求の手紙とイコモスカードを送付
- 2/5 第5小委員会 第14回会議開催 (於:文化財保存計画協会会議室 午後1時～8時)
- 2/12 インフォメーション誌、編集会議 (於:文化財保存計画協会 午前10時～12時)
- 2/18 事務局パソコン購入
- 2/18-19 ICOMOS 韓国委員会、日本ワークショップ委員会により ワークショップ「高麗開城の文化遺産的価値と保存」開催 (於:明治大学アカデミーコモン会議室) 前野委員長、矢野事務局長参加
- 2/25 (社)日本ユネスコ協会連盟 より「ユネスコ」2005 3. vol.1096 受領
- 3/12 第1回拡大理事会開催 (於:文化財保存計画協会 午前10時～午後1時30分)  
[JAPAN ICOMOS INFORMATION] 第6期5号発行 維持会員を含む全会員、関係団体に順次送付
- 3/25 「海外における文化遺産の調査と保存に関する円卓会議」(第6回)開催 於:建築会館
- 3/30 岡田保良氏のICOMOS執行委員立候補関係書類をパリ本部に送信
- 3/30 日本コンラクトブリッジ連盟より寄付金10万円受領
- 4/4 パリICOMOS本部より「bulletin n°54-55-56」2004/2005受領
- 4/11 東京文化財研究所より報告書4冊受領
- ・フランスに於ける歴史的環境保全—重層的制度と複層的組織、そして現在
  - ・Society and Systems for the Conservation of Cultural Heritage: Beliefs, People and Economy March 2005
  - ・日干し煉瓦の保存「第15回国際文化財保存修復研究会報告書」
  - ・“文化的景観”の意義—その保全、管理、
- 今後の課題—「第16回国際文化財保存修復研究会報告」
- 愛媛県よりCIAVの報告書「南予の町並みで世界を語る」を受領
- US/ICOMOSよりnewsletter number4-fourth quarter of 2004を受領
- 4/22 (財)ユネスコアジア文化センター文化遺産保護協力事務所より「文化遺産ニュース」Mar.2005, vol.12を受領
- 4/30 伊藤延男氏をICOMOS名誉会員としてパリ本部に推薦する書類を本部に送信
- 5/2 (社)日本ユネスコ協会連盟より「ユネスコ」2005 5 vol.1097を受領
- 5/7 第5小委員会 第15回会議開催 (於:文化財保存計画協会会議室 午後1時30分～午後8時30分)
- 5/14 第2回拡大理事会開催 (於:文化財保存計画協会会議室 午後2時～5時)  
UNESCO World Heritage Centreより「THE WORLD HERITAGE newsletter」number48 March-April 2005を受領
- 5/20 アレックス・カー氏を囲む会 (於:文化財保存計画協会会議室 午後6時～) 終了後懇親会 会食
- 5/29-6/2 ICOMOSアジア太平洋会議、ソウルで開催 前野委員長、西村幸夫氏、参加
- 5/30 US/ICOMOSよりNewsletter number1-first quarter of 2005を受領

## 日本イコモス国内委員会 維持会員 (代表者)

- |                       |                           |
|-----------------------|---------------------------|
| 株式会社 尾田組 (尾田芳信)       | 株式会社 鴻池組 (大岩祥一)           |
| 株式会社 総合計画機構 (糸谷正俊)    | 株式会社 都市環境研究所 (矢嶋啓自)       |
| 株式会社 乃村工務社 (乃村義博)     | 株式会社 ブレック研究所 (杉尾伸太郎)      |
| 株式会社 文化財保存計画協会 (矢野和之) | 「国宝松本城を世界遺産に」推進委員会 (有賀 正) |
| 株式会社 トリアド工房 (伊藤民郎)    | 西武建設株式会社 (松下和徳)           |
| 株式会社 京都科学 (片山 保)      | (敬称略・順不同)                 |

日本イコモス国内委員会の活動には以上の企業のご支援をいただいております。

●日本イコモス国内委員会 理事会 JAPAN-ICOMOS EXECUTIVE BOARD

President	委員長	前野 まさる	Masaru MAENO
Vice President	副委員長	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
		町田 章	Akira MACHIDA
Secretary General	事務局長	矢野 和之	Kazuyuki YANO
Trustees	理事	赤坂 信	Makoto AKASAKA
		稲葉 信子	Nobuko INABA
		岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
		小野 昭	Akira ONO
		河野 俊行	Toshiyuki KONO
		田中 哲雄	Tetsuo TANAKA
		西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
		濱崎 一志	Kazushi HAMAZAKI
		日高健一郎	Kenichiro HIDAKA
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA
		宮川 朝一	Asaichi MIYAKAWA
		山田 幸正	Yukimasa YAMADA
		渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Auditors	監事	沢田 正昭	Masaaki SAWADA
		西谷 正	Tadashi NISHITANI
Advisors	顧問	石井 昭	Akira ISHII
		伊藤 延男	Nobuo ITO
		坪井 清足	Kiyotari TSUBOI

小委員会 WORKING GROUPS

Chiefs	主査	藤井 恵介	Keisuke FUJII
		稲葉 信子	Nobuko INABA
		石井 昭	Akira ISHII
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA

●国際諸委員会参加者 REPRESENTATIVE TO INTERNATIONAL COMMITTEES

Vice President	西村 幸夫	Yukio NISHIMURA
Advisory Committee	前野 まさる	Masaru MAENO
Specialized Committee on:		
Archaeological Management	小野 昭	Akira ONO
	岸本 雅敏	Masatoshi KISHIMOTO
Analysis and Restoration	日高健一郎	Kenichiro HIDAKA
Structures of Architectural	坂本 功	Isao SAKAMOTO
Heritage	西澤 英和	Hidekazu NISHIZAWA
Historic Towns and Villages	福川 裕一	Yuichi FUKUKAWA
	上野 邦一	Kunikazu UENO
Underwater Cultural Heritage	荒木 伸介	Shinsuke ARAKI
Training	稲葉 信子	Nobuko INABA
	工楽 善通	Yoshimichi KURAKU
Historic Gardens and Cultural	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
Landscapes	本中 真	Makoto MOTONAKA
Vernacular Architecture	前野 まさる	Masaru MAENO
	大野 敏	Satoshi OHNO
Wood	村上 裕道	Yasumichi MURAKAMI
	伊藤 延男	Nobuo ITO
	渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Earthen Architecture	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Cultural Tourism	宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
	石井 昭	Akira ISHII
Legal Issues	河野 俊行	Toshiyuki KONO
Photogrammetry	西村 康	Yasushi NISHIMURA
Cultural Routes	杉尾 邦江	Kunie SUGIO
Stone	西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
	石崎 武志	Takeshi ISHIZAKI
Risk Preparedness	益田 兼房	Kanefusa MASUDA
Rock Art	小川 勝	Masaru OGAWA



## JAPAN ICOMOS INFORMATION

Vol.6, No.6 24 JUNE 2005

日本イコモス国内委員会 委員長 前野まさる

事務局担当理事 矢野和之 編集 山田幸正

〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-9-6 アストウルビル3階

株式会社 文化財保存計画協会 気付

Tel & Fax .03-5728-1621 e-mail [jpicomos@kb4.so-net.ne.jp](mailto:jpicomos@kb4.so-net.ne.jp)

### JAPAN-ICOMOS OFFICE

c/o Planning Institute for the Conservation of Cultural Properties

Asutouru Bldg.,1-9-6 Ebisu-nishi Shibuyaku Tokyo 150-0021, Japan

Tel & Fax .+81-3-5728-1621 e-mail [jpicomos@kb4.so-net.ne.jp](mailto:jpicomos@kb4.so-net.ne.jp)